

(06-08-09)

環境 WG 主査 村岡 浩爾

環境ワーキンググループの作業を終えて

地球的規模で 21 世紀は環境の世紀と位置づけられており、我が国においても、国策面で、また国民の関心も環境問題の重要性を認識し始めている。

本委員会では武庫川が 100 年に一度の規模の降雨が到来しても耐えうるような計画規模を想定し、環境面、またまちづくりの立場等多角的な視点で検討を加えてきた。

環境ワーキンググループにおいては自然環境と社会環境に大別し、自然環境については生態系を含む貴重な自然景観の維持、保全、創出について言及した。とりわけ武庫川峡谷は、生物の生息空間が広がる価値ある景観であり、武庫川流域におけるかけがえのない財産として位置づけ、武庫川渓谷を武庫川づくりの基準として対応してきた。社会環境については日々変化する社会情勢に的確に対応できる体制を強化しなければならないことを盛り込んだ。特に流域における「健全な水循環の形成」は、治水、利水、環境を総合的に配慮する環境保全の規範となる目標として扱い、その各論としていくつかの提言をまとめている。

今後、健全な武庫川づくりに向けて、参画と協働をベースにした組織を作り、まちづくりワーキンググループの提言内容とも整合させ、本提言の趣旨が生かされることを希望する。